

---

# ロスト

蝉羽月

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ロスト

### 【コード】

N9911F

### 【作者名】

蝉羽月

### 【あらすじ】

物を無くす罰を受けた男の話です。

男は、あらゆる物を無くした。気がつくとも、物質が男から離れてゆき、もう二度と戻ってくることはなかった。歯ブラシ、眼鏡、ヘッドホン、指輪、買い置きのみ。あるうことか、電子レンジやパソコンやコーヒーメーカーまで無くなった。男は、物が無くなることに對して執着しなかった。慣れてしまったのだ。決定的に。人間はどんな状況に置かれても、最後には適応することができる。ただ、コーヒーメーカーが無くなったことだけ残念に男は思った。すでに日課となっていた朝のコーヒーが作れないことに辟易したのだ。一度慣れたことを停止するのには時間がかかる。

男には、職がなかった。正確に言うなら、働く必要がなかった。数年前に、彼は意欲的な文章を書いた。彼の書いた文章は賛否両論の支持を受け、ミリオンセラーを記録し、海外へ翻訳もされた。今年には映画化のオファーがかかっており、オーストリアやアイルランドの文学賞を受賞すると専らの噂であった。しかし、その文章は男が書いたものではなかった。男はただ、従っただけだ。男が筆を取れば（現代においても、男は手書きだった）、筆は何者かの意志を持って動き出し、精練された魅惑の文を創り出した。始め、男はこれも才能だと、それも相当な才能だと歓喜した。そうして大作を書き上げ、世に発表した時、男は満足した。それと同時に、虚脱した。文芸誌やメディアで取り上げられる自分の名が、どうしても自分のものとは思われなかったのだ。名もやはり、男の元を去っていき、名として独自の地位を形成する。名だけが一人歩きして男を置き去りにした所で、男は考える時間を得た。思考・熟考・黙考。時間だけは男から離れていくことはなかった。八畳の一人部屋で昼も夜も考え続けた。そして一つの結論を得る。男は若かった。そして大多数の若者と同じく、間違いを犯した。ルールが見えていなかった。書くべきではなかったのだ。お決まりことの全容を誤認し、破

れるものと誤信し、自分は特別だと確信した。だから、男は罰を受ける。明らかに許容される範囲を逸脱していた行為に対する報いは救いのない永久罰として実現した。反発しあう磁石のように、男の周囲のものは加速度的に男から離脱していった。男の部屋には、すでに眠るための布団と、一冊の本しか残されていなかった。男は久しぶりに街に出てみようと思いついた。無人島ならぬ無物島からの脱出。幸い、靴は履いたままだった。

外は、太陽が照りかえる夏である。男が駅前をぶらついている時、電光掲示板にニュースが入った。男の書いた文章を読んだ者が、また自殺を果たしたとの知らせであった。男の文章には引力がある。引力は貴賤の差なく、法則に従って、読み手を別の世界に引きずり込んだ。名声、あるいは侮蔑も、いずれは男を離れていく。男はそれを知っていたから、何も言わなかった。言ったところで、文はすでに男の所有物ではなくなっているのだ。じわりとした汗をかく。地面が揺らいで見える。男は引き返した。

部屋に帰ると、布団が無くなっていた。男は溜息をついた。これで、男に残ったものは、一冊の本だけになった。

男は、その一冊の本を手にとり、ぱらぱらと捲った。113ページ目が光っていた。男は不思議に思い、光るページを読み始めた。そして、ある言葉を発見した時に、涙が出た。ここにはまぎれもない、男がその手で生み出した言葉があった。自動筆記で書かれた本の中にたった一言、男自身が創り出した言の葉。男はその言葉のために、すべてを無くしてきたのだと思った。凡庸で、奇抜さの欠片もない、ありきたりの言葉だった。しかし、その言葉は一切の不純のない、本心からの言葉だ。

男はその言葉をつぶやいた。

言葉も、男から去っていった。

(後書き)

思いつくままに、駄文を書いてしまいました。  
感想をお寄せいただければ幸いです。

読んでくださった方、ありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9911f/>

---

ロスト

2011年1月12日14時51分発行